

ながと

地域医療情報紙

創刊号

平成24年8月1日発行

長門医療圏地域医療再生計画推進協議会

適切な医療受診啓発部会

信頼される医療の 提供に向けて

長門医療圏地域医療再生計画推進協議会長
(長門市医師会長)
天野 秀雄



みんなで守ろう 長門の医療

長門医療圏地域医療再生計画推進協議会
適切な医療受診啓発部会長
三戸 幸子



長門市民の皆様、こんにちは。

市民に良質で信頼される安全な医療を継続的に提供するため、平成22年6月、長門医療圏地域医療再生計画推進協議会が市民の代表、長門市、長門市医師会、長門歯科医師会、長門薬剤師会のメンバーで結成されました。

御多分に洩れず当市でも高齢化の波が押し寄せています。当然、医療関係者の高齢化も進んでいます。少ない医療資源を有効に活用できるように市民の皆様、長門市、医療関係団体が一緒になって真剣に考え、行動すべき時期に来ています。

協議会では意見の調整を図りながら、県の地域医療再生基金を活用して、構成団体が、救急医療の強化策として応急診療センターの建設や医療情報の電子カルテ化、病院・診療所間のネットワークの構築、薬局間のネットワークの構築等の事業を行い、地域医療の再生に取り組んでいます。

市民の皆様の健康と生命を守るために、これからも日々努力して参りますので、何卒ご協力よろしくお願いたします。

私たちは、体の具合が悪くなると、お医者さんに診察してもらい、検査を受けたり薬をもらったりしています。

でもこの当たり前のことが、これから先もずっと続くとは限りません。

「医師不足県内ワースト2」というこの長門で、今こそ、みんなが医療を支えるために何をしたらいいのかを考えるときです。

医療関係者や行政だけに任せるのではなく、私たち市民はもっとこの地域の現状を知り、医療を身近に考え行動する必要があります。

お医者さんに、やりがいと愛着をもって働いていただき私たちが5年先も10年先もこの長門で安心して、安全な治療を受けられるためにはどうしたらいいのでしょうか。

そのカギは私たち市民一人ひとりが握っているのです。

この情報紙は、長門の医療に関していろいろな情報を掲載いたします。そして、長門の医療を守るためには、自分は何をしたらよいかを考え行動していただくきっかけづくりをしたいと思います。ぜひご愛読ください。

今後の情報紙の掲載内容

発行頻度：3ヶ月に1回

- ・長門地域の医療の現状、課題と取組の方向について、テーマ毎にお知らせします。
- ・「地域医療フォーラムの基調講演」(村上智彦医師：北海道夕張医療センター)の内容を連載でお届けします。

長門地域医療再生計画の概要

◆ 計画期間 ◆
H22年1月～H25年度末

救急医療の強化や医師確保など地域における医療課題の解決を図るため、県が策定した地域医療再生計画に基づき、長門医療圏における医療の再生に取り組んでいます。

本医療圏の現状と課題

1 救急搬送

- ・救急搬送人員数の増加
(H19年にH14年対比で約20%増加)
- ・救急搬送件数のうち、軽症患者の割合が約41%と高い。
- ・救急病院における軽症患者の時間外受診は県内ワースト1位です。

課題 救急医療を担う病院の負担増

2 救急医療体制

- ・初期救急医療体制は、休日の昼間について、「在宅当番医制」により、受入体制を整備しているが、夜間については、受入体制がなく、軽症患者の多くが救急病院を受診しています。
- ・二次救急医療体制は、岡田病院、齋木病院、長門総合病院の3病院による「病院群輪番制」で対応しているが、特別な医療処置を必要としない時間外受診者の増加により各病院の負担が大きくなっています。

課題 救急病院が本来対応すべき救急患者の診療に支障

3 周産期医療体制

- ・分娩の取扱いが可能な医療機関が少ない。
- ・低体重児出生割合が県下で1番高い。
- ・ハイリスク分娩に対応する施設がない。

課題 広域的な支援体制の確保

4 医療従事者

- ・本圏域の医師数は、人口10万人対で全県平均と比較した場合、内科、外科、小児科、産婦人科、麻酔科のいずれも全県平均を下回っています。
- ・看護師数も人口10万人対で全県平均に比べ低い水準です。

課題 医師、看護師の確保

具体的な施策

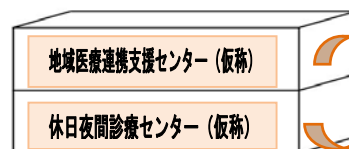
(本医療圏で取り組む事業)

県が設置する地域医療再生基金を用いて、市や医師会、薬剤師会など関係機関・団体が一体となって様々な施策に取り組んでいます。
事業費：12.5億円(補助率10/10)
事業期間：平成22年度～平成25年度

1 休日夜間診療センター及び地域医療連携支援センター整備事業

地域の医療崩壊の予防、医療機能の向上を図るため、地域の中核病院、二次救急医療機関の負担を軽減し、高度医療に特化できるよう、初期救急医療機能を集約化する**休日夜間診療センター(仮称)**を整備しています。

また、これに併設して、医療機関の連携強化を図るために**地域医療連携支援センター(仮称)**を整備しています。

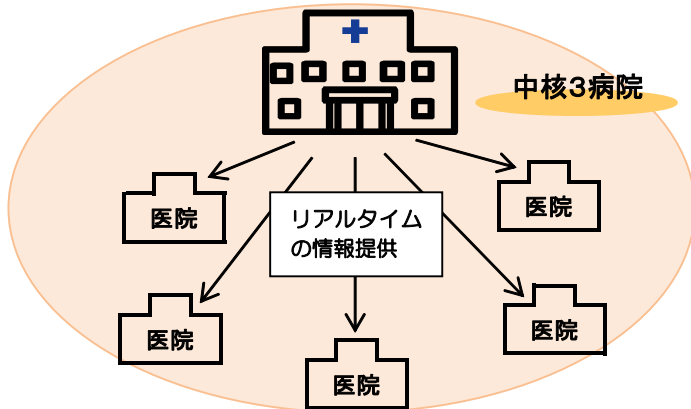


- ・医療と福祉の連携
- ・医療関係研修
- ・応急診療

2 地域連携情報システム構築事業

地域の病院や医院等で医療情報（患者の基本情報、診察所見、画像を含む検査データなど）を共有するための情報ネットワークシステムを構築しています。

医療情報ネットワークシステム



患者同意により、医療情報の共有
参加医療機関；23病院・医院等

これにより次のような効果が期待できます。

患者サービスの向上

- ・より迅速な診断、処置が可能になります。
- ・重複検査を回避できます。 など

安全性の向上

- ・禁忌・アレルギー情報が医療機関で共有できます。（特に高齢者、救急患者対応が容易になります。）
- ・薬剤の重複投与を回避できます。 など

3 専門外診療科に係るプライマリーケア研修事業

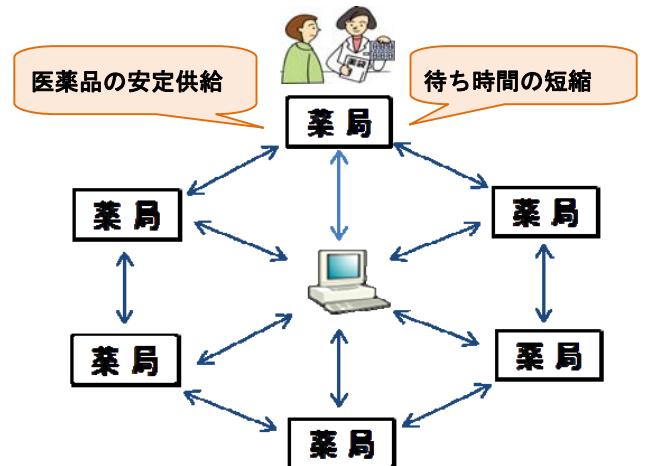
休日夜間診療センターの開設に向け、地域の開業医等による合同症例検討会や大学の専門医等による研修会を行っています。

4 薬局ネットワーク構築事業

薬局間のネットワークを構築し、他薬局の薬品在庫状況を迅速に確認できる情報ネットワークシステムを構築しています。

これにより、圏域内の薬局全体で備蓄薬の管理を行い、自局にない薬品の速やかな仕入れを実現し、患者に対する迅速な処方を実現しています。

薬局ネットワークシステム



自局にない薬の速やかな仕入れ実現
参加薬局；24薬局

5 地域住民に対する適切な医療受診の啓発活動事業

地域住民に向けて適切な受診を呼びかける啓発活動を行っています。

- 講演会の開催、情報紙の作成
- 出前講座の開催 など

6 長門地域医療再生計画推進協議会設置事業

本計画を着実に推進するため、実施事業について医療機関、市、市民の意見を調整するための組織を設置し、計画の推進を図っています。

この情報紙へのお問い合わせ・ご意見等がありましたら下記へお願いします
■編集事務局 長門市市民福祉部健康増進課 TEL 0837-23-1132

地域医療を守るための提言

夕張の地域医療再生に尽力されている 村上智彦 先生が熱く語った

2月に開催された地域医療フォーラムで、破綻した北海道夕張市立総合病院を夕張医療センターとして再生された村上先生の講演内容の一部をシリーズでご紹介します。

村上先生は、夕張市や他市の話为例に、地域医療を守るための多くの提言をしてくださいました。



村上智彦 医師

専門：地域医療/予防医療/地域包括ケア

小児科医がいなくなる！

～兵庫県丹波市の県立柏原病院の話～

ここは、人口8万人の大都市だが県立病院の小児科医は2人。そのうちの1人が辞め、1人残った和久医師(僕の友達)は「1人で24時間、365日診察出来ない。もう身も心もボロボロだから辞める。」と言いました。当然ですよ。僕は当然だと思ったんです。

コンビニエンスストアに行くように、ちょっと熱が出たら、夜中でも休日でも病院に行くことが先生達を疲弊させてしまっていたんです。

お母さん達が立ち上がった！

小児科の先生がいなくなったら困るというんで、普通のお母さんが立ち上がって、「医療を守る会」を作りました。子供を守るために、小児科を守ろうと一生懸命署名を集めました。なんと5万5千人の署名を集め兵庫県にお願いに行きました。行政の回答は「医師不足は、あなたの地域だけの問題ではない。もっと困っている地域があるから無理です。あなた達だけえこひいきする訳にはいかない」と言われます。がっかりしたお母さん達でしたが、ここから頑張った

んです。

「コンビニ受診を控えよう。かかりつけ医を持つ。お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」をスローガンに行政に頼るのではなく、自分達でやろう！と出来ることを始めていきます。

減らそうコンビニ受診！

小児科の医師と話しながら、こういう状態だったら病院を受診しよう。これだったら様子を見ていいよというのを、わかりやすくフローチャートにしました。すごいですね。で、どうなったか。当然、激減しました。月に200～300人だった時間外の受診が1/10に。そうすると、ここの住民は医者を大事にしてくれるという噂が拡がり、お医者さんが、あっという間に6人になりました。活動をしたのは、普通のお母さん達。本気で守りたいと思ったら守れるんです。

簡単ですよ。自分達を大事にしてくれる所に行きますよね。逆にね、権利だから、税金を払っているからとか、訳わかんない事を言っているような所には誰も行きません。

医療崩壊をさせているのは住民自身です。

以下次号に続く